

理科 第3学年 ○植物の一生 検討会の想定問答

指摘 1：本時で何を見取るのか。

返し：観察した共通点や違いを基に、「花がさいたあとの植物は、どのように変わっていくだろうか」につながる問題を見だし、表現している。結論だけではなく、どの事実を選び、なぜその事実で説明できると考えたかを見る。B(1)の学習を具体的な記録で確かめる。

指摘 2：活動だけで終わらないか。

返し：栽培してきた植物の花・実・種子を観察し、自分たちの記録写真を育った順に並べる。枯れた茎や葉と実の中の種子を一緒に見て、次の成長につながるものがどこに残ったかを図にする。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。B(1)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3：予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し：枯れたので何もなくなったという反応には、実の中を観察して春にまいた種子と比べる。同じ場所でも生長の速さに違いがあるので、日付だけで同じ姿になるとはまとめない 予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。B(1)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4：説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し：比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。育ち方を写真と絵で順に並べる活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5：安全や個人への配慮は何か。

返し：正体の分からない実や種子を口に入れない。植物を抜く場合は栽培計画を確かめ、かぶれやとげのある植物は教師が扱う 実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、B(1)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6：資料やICTはどのように使うか。

返し：栽培してきた植物の花・実・種子を観察し、自分たちの記録写真を育った順に並べる。枯れた茎や葉と実の中の種子を一緒に見て、次の成長につながるものがどこに残ったかを図にする。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7：時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し：全3時間は啓林館の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「花がさいたあとの植物は、どのように変わっていくだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8：振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し：「花がさいたあとの植物は、どのように変わっていくだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。種子から次の育ちへつながる図を作る活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

